母性看護学実習

実習指導要項

母性看護学実習

１　実習のねがい

母性看護の対象は、各発達過程にある女性とその家族が対象となる。また性に大きく関わるこの領域では、近年、性的マイノリティの方達の婚姻や出産が増加していることを受け、女性とその家族のみならず、多様なセクシュアリティを持つ対象への理解も必要となる。よって、多様な性という切り口を通し、性の在り方を含めたどのような対象者でも、またどのような家族の形でも受け入れ、理解し、支援していくことを目的としたい。

そのなかでも主たる対象となる女性は人生を通じて自己の母性を心身ともに発達させ、継承していく発達課題をもっている。学歴を積み社会進出をする女性が増加したことから、女性が一生に経験する月経回数は増加し、仕事や日常生活の中で月経周期の不調やトラブル、婦人科疾患のリスクが高まり、それらに悩み地域の診療所を受診する女性は後を絶たない。さらに核家族化も進み、サポートの少ない育児環境の中、疲弊しながら弧育てを余儀なくされる女性や、晩産の影響から育児と更年期を同時に迎え心身の調和がとれない女性も増加した。人生を豊かにするために、女性が自らライフコースを選択することができた一方で、心身の不調和から発達課題がクリアしにくい現状も生まれている。これらのことから、実習では対象者の置かれている社会背景を踏まえ、ホルモンの働きやライフコースにより変化していく対象者の心身の健康状態に気づき、考え、行動できる実践力の習得を目指していきたい。

女性は各発達過程において、様々な倫理課題に直面する。実習を通し学生も、胎生期を含む生命の選別、女性性の喪失と死など、母性看護特有の倫理課題に触れていく。また多様な性を持ちあわせる多くの対象者にも出逢うだろう。よって、学生には直面した倫理課題について深く考察するとともに、対象者と自分自身の価値観の相違を受け入れ、理解しながら看護師としての倫理観を養っていってほしい。

母性の看護の対象は地域の中に存在している。そのため対象者が住み慣れた地域の中でより健康を維持・増進していけるよう、母性看護の対象を支えるための看護について考え、各々の母性観を養っていくことをねがい指導していきたい。特に、人生経験・生活体験の乏しい学生は対象との関わりに苦慮することも多い。その中でも学生は、周産期にある方々と接する機会が少ないことから、その時期の対象者についてイメージすることは難しい。よって、学生の緊張をとり除き対象との関わりの糸口をみつけて早期に対象理解ができるよう臨床の協力を得ることで、学生には様々な実習体験をもとに、女性が地域で安心して暮らしていくための母性看護の役割を学んでほしい。

＜実習目的＞

母性看護の対象を理解し、女性の健康の促進へ向けた看護の役割について学ぶ

＜実習目標＞

１　対象の生理的変化をふまえ、健康促進へ向けた看護について考える

２　母性看護の対象に向けた、地域における看護の役割について考える

＜評価規準＞（めざす姿）

１　対象者の身体・心理・社会的な健康状態を表現する

２　対象者に必要な看護を根拠に基づいて実践する

3　生命の尊厳について自己の考えをもち、対象者の考えを尊重して関わる
4　女性が地域で安心して暮らしていくための母性看護の役割を表現する

2　実習内容・学習方法と指導方法の具体的展開と指導方法

①　清水病院オリエンテーション　実習初日（9時間×１日）

学習活動	時間	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
母性看護の役割を理解する	8：30 ～15：00 15：00 ～ 15：30 16：15	病院オリエンテーションを受ける ・実習要綱を用いて、実習目的・目標の確認 ・実習ローテーション表を用いて、実習場所・方法の確認 ・婦人科患者、妊産褥婦の１日の流れ（婦人科手術、経膣分娩・帝王切開術）を知る ・内診台の昇降介助方法・学生同士で患者・看護師役になり声かけや操作方法の確認 ・観察室でレオポルドの触診・モニタリングの方法の確認、安楽な体位の工夫方法を学生同士で患者・看護師役になり声かけや操作方法の確認 ・学生が分娩台に乗り、努責の体験、産婦への誘導方法の体験 ・新生児室への入り方の説明（感染予防の確認） （手洗い方法、着替え場所、ガウンテクニック） ・新生児の抱き方、おむつの替え方、バイタルサインの測定方法の説明、沐浴方法の確認　身体計測の実施 ・助産師外来オリエンテーションを受ける 診察の流れ、診察の介助、検査の介助の方法の説明、外来カルテの説明、診察機器・器具の説明 ・学生カンファレンス 「オリエンテーションを通して、感じたこと考えたこと」 翌日の実習目標・計画を立案し、教員に相談	女性が地域で安心して暮らしていくための母性看護の役割を表現する	カンファレンスの発言	・病院オリエンテーション内容・方法を事前に指導者と調整する。 ・母性看護学実習を行うにあたり必要な知識について確認し事前学習につなげる。 ・実習前に沐浴・新生児の抱き方・新生児と褥婦の観察の技術を確認する ・実習ローテ―ション表を確認しながら各実習場所で体験し学ぶ内容がイメージできるよう指導する。 ・指導者が行う病棟オリエンテーションに参加し、学生の理解状況を確認し、必要時追加説明を依頼する。 ・内診台や分娩台に乗ることで、どのような気持ちを抱くか学生に発問し、援助中の配慮点について考えることができるよう指導する。 ・感染予防やプライバシー保護、個人情報の厳守について、再度指導する。 ・集団退院指導では、指導内容だけでなくその時の褥婦の言動を観察し、必要な援助を考えることができるよう指導する。 ・感染管理上の入室の方法の違いについて再度確認し、翌日からスムーズな行動がとれるよう確認する。 ・教員が参加し、学生の理解状況を確認する。 ・教員は学生から、翌日の実習目標、計画とその理由を確認し、達成可能な目標や週間スケジュールをふまえた計画に支援する。

② 外来(病院の外来・診療所) 実習２日間（9時間×２日）

学習活動	時間	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
母性看護の対象について理解する 看護専門職者としての倫理観をもつ	8：30 ～	外来の日程に応じ、振り分けられたブースで実習する ・担当看護師に挨拶し実習目標を発表する ・申し送りに参加する ・看護師の指導のもと診察の介助を通して以下の体験をする ＜産科・助産師外来＞午前 ・腹囲・子宮底の測定 ・レオポルドの触診・児心音の聴取、ノンストレステストの実施 ・超音波検査の見学 ・内診の介助 ・妊婦の生活指導の見学 ＜助産師相談室＞午後 ・2週間健診　1か月健診の見学 ・子宮底の測定、対象に必要な保健指導の実施 ＜婦人科外来＞ ・初診時の診察の見学・介助 ・外来カルテより情報収集 ・子宮・卵巣に障害のある人の診察の見学・介助 ・不妊症の診察の見学・検査 ※診療所実習では了承の得られた対象患者を１名受け持ち、外来カルテから情報収集をした上で待合ブースから診察終了まで対象者と行動を共にする ＜母親学級＞（病院で隔週の水曜日に開催） ＜教室＞（診療所で適宜開催） ・指導者に教室参加を伝え、待機場所、動き方を事前確認する。	対象者の身体・心理･社会的な健康状態を表現する 生命の尊厳について自己の考えをもち､対象者の考えを尊重して関わる	実習記録Ⅲ カンファレンスの発言	・外来オリエンテーション内容・方法を事前に指導者と調整する。 ・産科・助産師外来では、学生１人につき１回の見学ができるよう調整し、患者の受付時間を学生に伝える ・妊婦の妊娠経過や胎児の発育について理解するために必要な看護技術を体験するよう指導する。 ・助産師相談室を訪れる褥婦の事前場情報を提示し、必要な保健指導が実践できるよう指導する。 ・多職種連携、助産師外来と地域とのつながりについて学生が考えられるよう促す。 ・婦人科外来では、女性生殖器に障害を持つ人の診察の介助を通して、対象者の思いに気付き、家族を含めた対象に及ぼす影響について考えることができるよう促す。 ・外来カルテやスタッフから対象者の心身・社会面の情報を得て、関わることで自ら必要な情報を得ることができ、対象者の思いに気づき、必要な看護について考えることができるよう指導する。 ・妊娠経過に応じ、前期・後期と２期に分かれて母親学級が行われている意味について、参加している妊婦と関わり、妊婦の身体的特徴や妊婦家族の思いから考えられるよう指導する。 ・母子健康手帳交付から出産までの間にある地域や医療機関での支援について考えていけるよう促す。 ・カンファレンスでは母親学級で学生が体験したことを

	15：00 ～ 15：30 16：15	・担当助産師の指導のもと会場の準備と片付け、参加 学生カンファレンス （診療所で体験したことは、後日校内で話し合い、情報共有していく） ・１日の実習の振り返り、記録 ・翌日の実習目標・計画を立案し、教員に相談			聞き、母親学級の意味について考えられるよう促す。

③　病院実習６日間（9時間×6日）

【　女性生殖器に疾患を抱えた女性の看護実習　】

学習活動	時間	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
母性看護の対象について理解する 対象者に必要な看護援助を実践する 看護専門職者としての倫理観をもつ	8：30 ～ 15：00	・受けもち患者の紹介、受けもち患者や家族に挨拶 ・外来カルテ・電子カルテから情報収集し、現在までの経過を把握する ・女性生殖器に疾患のある女性に必要な看護を理解し、指導のもと実践する。 ・性器出血の有無、帯下の有無、腹部腫瘤、腹部膨満、腹痛、疼痛の観察 ・膣鏡診・内診、細胞診、内視鏡検査、超音波断層法、CT、MRI、PET、骨シンチ、遺伝子診断の観察 ・手術前・後の観察と看護 ・化学療法、放射線療法、ホルモン療法の理解と副作用（排尿・排便障害、リンパ浮腫）の観察と看護 ・疼痛管理と看護 ・女性生殖器に疾患を抱えた女性の性やセクシュアリティへの配慮と精神的支援 ・対象者のニードに合わせた日常生活援助と看護 ・対象者に必要な保健指導（退院後の日常生活、性生活、異常時の対応） ・家族への看護 学生カンファレンス	対象者の身体・心理･社会的な健康状態を表現する 対象者に必要な看護を根拠に基づいて実践する 生命の尊厳について自己の考えをもち、対象者の考えを	実習記録 ⅠⅡⅢ 実習状況 ミーティングやカンファレンスの発言 面接	・ライフサイクル各期にある女性の特徴が理解できるよう促す。 ・対象の健康状態と経過の中のどの時期にあたるのか、そこを踏まえて観察項目を考えていけるよう知識の確認をし、不足があれば知識を補うよう指導する。 ・受けもち患者と学生の関係性が取れるよう調整を図る。 ・適宜視点を示し、観察した内容から対象に必要な看護を根拠に基づいて実践できるよう助言をする。 ・女性生殖器に疾患のある女性の思い、女性性や妊孕性、美容面の喪失等、対象者の思いを深く考察できるよう発問をしていく。精神的支援ができるよう声をかけていく。 ・対象者が日々の生活の中で発している家族への思いや、病院に訪れている家族との会話を通し、家族看護の必要性にも気づけるよう指導する。また家族に目が向くよう、情報の不足があれば視点と共に提供する。 ・カンファレンスでは、学生の気付きや思いを尊重し、母性観を深めていけるよう助言していく。

	～15：30 16：15	テーマ：当日決定する	尊重して関わる		

【　妊婦の看護実習　】

学習活動	時間	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
母性看護の対象について理解する 対象者に必要な看護援助を実践する 看護専門職者としての倫理観をもつ	8：30 ～ 15：00 ～15：30 16：15	・受けもち患者の紹介、受けもち患者や家族に挨拶 ・外来カルテ・電子カルテから情報収集し、現在までの経過を把握する ・子宮収縮の頻度と程度の観察（触診）、出血の有無、破水の有無、胎動の有無の観察 ・分娩監視装置の装着とモニタリングの理解 担当助産師や教員とノンストレステストの評価 ・レオポルドの触診 ・腹囲・子宮底の測定 ・使用薬剤の有無と副作用の観察、マイナートラブルと対処法の工夫 ・妊婦のセルフケア不足に対する援助 ・妊婦の状況に合わせたパンフレットを作成し、必要な指導と実践を行う（切迫早産、妊娠高血圧症、妊娠糖尿病、食事指導） ・情報を整理しながら、受けもち情報用紙、1日の実習計画表を記入する 学生カンファレンス テーマ：当日決定する	対象者の身体・心理･社会的な健康状態を表現する 対象者に必要な看護を根拠に基づいて実践する 生命の尊厳について自己の考えをもち、対象者の考えを尊重して関わる	実習記録 ⅠⅡⅢⅣ 実習状況 ミーティングやカンファレンスの発言 面接	・ライフサイクル各期にある女性の特徴が理解できるよう促す。 ・対象の健康状態と経過の中のどの時期にあたるのか、そこを踏まえて観察項目を考えられるよう知識の確認をし、不足があれば知識を補うよう指導する。 ・受けもち患者と学生の関係性が取れるよう調整を図る。 ・適宜視点を示し、観察した内容から対象に必要な看護を根拠に基づいて実践できるよう助言をする。 ・入院している妊婦の思い、家に残された家族や児のきょうだいの思いに気付けるよう発問する。 ・母親の胎内に宿る命に触れながら、生命の尊さや不思議さについて思いを巡らし、生命倫理について考えることができるよう声掛けをする。 ・カンファレンスでは、学生の気付きや思いを尊重し、母性観を深めていけるよう助言していく。

【　産婦の看護実習　】(LDR 室)

学習活動	時間	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
母性看護の対象について理解する 対象者に必要な看護援助を実践する	8：30 ～	・受けもち患者の紹介、受けもち患者や家族に挨拶 ・外来カルテ・電子カルテから情報収集し、分娩までの経過を把握する ・陣痛と児心音の観察・産婦の訴え・破水の観察 ・分娩監視装置の装着とモニタリングの理解 ・分娩進行を担当助産師・看護教師と評価 ・陣痛発作時の看護、安楽な体位・姿勢の工夫、睡眠と休息・食事と水分摂取・排泄・清潔の援助家族への配慮について考え見学・実施 ・呼吸法・努責指導、清潔の援助、安楽の工夫 ＜帝王切開術立ち会い＞ ・帝王切開術が適応された理由をアセスメントする ・術前の観察 ・帝王切開術に立ち会う（学生は２名で立ち会う） ・児娩出後、出生直後の看護を見学 ・褥婦が帰室したら術後の観察	対象者の身体・心理･社会的な健康状態を表現する 対象者に必要な看護を根拠に基づいて実践する	実習記録 ⅠⅡⅣ 実習状況 ミーティングやカンファレンスの発言 面接	・分娩経過に応じた母体の変化から観察項目を考えていけるよう知識の確認をし、不足があれば知識を補うよう指導する。 ・受けもち産婦と学生の関係性が取れるよう調整を図る。 ・受けもち産婦の分娩の経過を理解し、産婦とスムーズに関わっていけるよう介入していく。 ・観察した内容から分娩の経過を考え、身体的変化に伴う苦痛や出産に向けての思いについて理解を深めていけるよう促す。 ・陣痛発作時は、観察の視点を示しながら対象に必要な看護について一緒に考えながら援助を実施し、理解を深められるよう支援していく。 ・分娩に向かう家族の思いに気付けるよう関わる。 ・分娩経過を産婦と共に過ごすことで感じた思いを表現し、母性観につなげていけるよう指導する。
看護専門職者としての倫理観をもつ		・児娩出後の胎盤娩出状況、子宮収縮状態の観察、母子対面場面の見学 ・産婦と分娩の振り返りを行う ・情報を整理しながら、受けもち情報用紙、１日の実習計画表を記入する	生命の尊厳について自己の考えをもち､対象者の考えを尊重して関わる		・胎盤の観察を通し、生命がつくられる過程を意識し、母体の中で育まれてきた生命の神秘について考えながら観察できるよう介入する。 ・産婦が自身の出産を肯定的に捉えることができるように関わり、産婦と分娩の振り返りを行うことができるよう促す。
	15：00 ～15：30 16：15	学生カンファレンス テーマ「生命について感じたこと考えたこと」			・分娩の経過や出産に対する思いが、その後の育児行動に影響するということを考えられるよう促す。 ・カンファレンスでは、学生の気付きや思いを尊重し、母性観を深めていけるよう助言していく。

【　褥婦の看護実習　】

学習活動	時間	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
母性看護の対象について理解する 対象者に必要な看護援助を実践する 看護専門職者としての倫理観をもつ	8：30 ～ 15：00 ～ 15：30 16：15	・申し送りに参加する ・担当看護師に挨拶し実習目標を発表する ・受けもち患者の紹介 ・受けもち患者や家族に挨拶 ・外来カルテ・分娩録記録から情報収集し、分娩経過を把握しアセスメントする ・電子カルテから分娩後の産褥経過を把握する ・担当看護師又は看護教員と受けもち褥婦の観察（午前・午後 各１回） バイタルサイン、全身状態、子宮復古状態、乳房・乳汁分泌状態の観察 受けもち褥婦の新生児の情報収集も同時に行う ・子宮復古促進の援助を看護師または教員と実施する 実施前に、産褥体操パンフレットを指導者もしくは担当看護師に見てもらい、指導方法を確認する ・授乳の様子を見学し、看護師・看護教員と授乳介助 ・堤式マッサージ方法の指導の見学 ・対象に合わせた授乳方法について考える ・集団沐浴指導の見学（月、水、金曜日の９：30 頃） ・集団退院指導の見学（月、金曜日の 11 時頃） ・対象に応じた個人指導の見学 ・情報を整理しながら、受けもち情報用紙、１日の実習計画表を記入する 学生カンファレンス テーマ：当日決定する ・翌日の実習目標・計画を立案し、教員に相談	対象者の身体・心理･社会的な健康状態を表現する 対象者に必要な看護を根拠に基づいて実践する 生命の尊厳について自己の考えをもち､対象者の考えを尊重して関わる	実習記録 ⅠⅡⅢⅣ 実習状況 ミーティングやカンファレンスの発言 面接	・分娩・産褥経過を捉え正常からの逸脱をアセスメントし、予測的に観察項目を考えていけるよう知識の確認をし、不足があれば知識を補うよう指導する。 ・受けもち褥婦と学生の関係性が取れるよう調整を図る。 ・受けもち褥婦の分娩の経過を理解し、褥婦とスムーズに関わっていけるよう介入する。 ・子宮復古の観察と乳房・乳汁分泌状態の観察は指導者もしくは教員のもとで実施し、技術確認していく。観察に不足があればその場で一緒に実施し補っていく。 ・褥婦の表情や言動から精神・心理状態について考えられるよう介入する。 ・産褥体操の指導パンフレット内容が適切であるか確認する。不足や言葉の修正点を指導していく。 ・産褥体操の指導は受けもち褥婦の生活パターンを把握したうえで、褥婦と調整がとれるよう支援する。 ・乳房の観察時は母乳哺育に対する褥婦の思いを把握し、母乳哺育確立の援助につなげていけるよう指導する。 ・受けもち褥婦が母子分離状態にある場合は、３Ｂ病棟未熟児室への連絡調整を指導者に依頼し、母子の面会に同席させてもらう。面会時は母子の関係性を愛着形成の視点から考えることができるよう支援する。 ・新たに誕生した児が家族に加わることで、父親、きょうだいや祖父母にどのような影響が及んでいるか考えることができるよう促す。 ・カンファレンスでは、自己の行った子宮復古促進の援助について振り返りを行い、子宮復古促進の看護の必要性についてグループ内で考えられるよう導く。

【　新生児室実習　】(9 時間×1 日)

学習活動	時間	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
母性看護の対象について理解する 対象者に必要な看護援助を実践する 看護専門職者としての倫理観をもつ	8：30 ～ 15：00 ～ 15：30 16：15	・申し送りに参加する ・担当看護師に挨拶し実習目標を発表する ・紙カルテもしくは電子カルテを使って受けもち新生児の出生後の経過を情報収集する ・受けもち新生児のバイタルサインの測定、全身状態の観察、黄疸チェック、体重測定、哺乳量と時間、排泄状況を確認する ・新生児の検査、診察、処置の見学 ・観察したことから沐浴が可能であるかアセスメントし、観察した結果をふまえて看護師に報告する ・看護師が行う沐浴を見学する ・集団沐浴指導の見学 ・受けもち新生児の沐浴の実施 ・受けもち新生児の沐浴中・後の観察をし、看護師に報告する ・授乳の介助、ミルク補充の実施 (安全な抱き方、あやし方を学ぶ) ・原始反射の観察、身体計測の実施 ＜出生直後の児の処置＞ ※出産があった時には、出生直後の処置を見学する ・出生直後の児の取り扱い ・出生直後の児の観察・計測 ・母子の関わり、家族への関わり ・情報を整理しながら、受けもち情報用紙、1 日の実習計画表を記入する 学生カンファレンス テーマ「新生児の看護について」 ・翌日の実習目標・計画を立案し、教員に相談	対象者の身体・心理･社会的な健康状態を表現する 対象者に必要な看護を根拠に基づいて実践する 生命の尊厳について自己の考えをもち､対象者の考えを尊重して関わる	実習記録 ⅠⅡⅣ 実習状況 ミーティングの発言 面接	・新生児の生理的特徴に関する事前学習を確認し、不足があれば知識を補うよう指導する。 ・受けもちをしている褥婦の新生児を受けもつことで、母子の相互関係の理解が深まるよう、受けもち新生児の選定は配慮していく。 ・新生児の観察方法は、その順序や方法について学生の考えを聞きながら、新生児にとっての安楽性を保持し、正確な観察が実施できるよう模範を示しながら指導する。 ・新生児の生理的変化、身体的特徴、発育状況について、知識と、実際の新生児と照らし合わせて確認できるよう指導する。 ・沐浴指導の見学を通し、対象に応じた指導方法につて考えられるよう助言する。 ・褥婦と看護師との関わりから褥婦の育児観を尊重した関わり方について考えられるよう促す。 ・新生児を養育するために必要な技術に関する事前学習を確認し、不足があれば補うよう指導する。また、技術実施時は学生の補助を行い安全な方法について指導・助言する。 ・出生を境にした胎児から新生児への生理的変化の理解を確認し、児の健康な発達を促すための看護の必要性について意見交換ができるよう導く。 ・受けもち褥婦に行われていた乳汁分泌促進の援助や助産所実習での体験を通して、母乳の利点を再確認し、母乳哺育確立のための援助について考えられるよう指導する。

【　実習６日目最終日　】（9 時間×１日）まとめ１時間を時間内に含む

学習活動	時間	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
母性看護の役割を理解する	8：30 ～ 15：00 ～16：00 16：15	・各ローテーション場所で実習を行う 最終学生カンファレンス 「母性看護学実習での学び」 ・日々の実習体験を通し考えた、母性看護における倫理（生命の誕生・命を育てることの意味など）を表現する ・女性の健康促進に向けた看護の役割について表現する ・指導者より助言をいただく 本日のまとめ、記録、報告 最終提出記録についての確認	女性が地域で安心して暮らしていくための、母性看護の役割を表現している	最終レポート カンファレンスの発言	・実習全体を通して、学生の体験からの学びに差が生じているようであれば、体験できていない学生に対し、見学もしくは実施できるよう指導者と調整する。 ・学生が対象者への援助を通し、生命への畏敬の念をもち女性の健康促進に向けた看護、地域連携、切れ目ない支援について考えられるよう助言する。 ・最終カンファレンスを終え、深まった母性観、倫理観について、レポートに表現できるよう指導する。

④　助産所実習（9 時間×１日）

学習活動	時間	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
母性看護の役割を理解する	8：30 ～ 15：00 ～ 15：30 16：15	助産師より、助産所実習オリエンテーションを受ける ・助産所の施設概要について ・地域活動についての説明 助産所の日程に応じ、助産師の指導のもと実習する ・妊婦健診や新生児訪問の見学 ・子育てサロンの参加 ・助産師の対象への関わりを見学 ・今までの実習の学びや体験をもとに、できるところは助産師と一緒に行い、妊婦・褥婦・新生児と関わる ・助産所が果たす、地域における役割について考え、助産所実習記録に表現する まとめ （助産所で体験したことは、後日校内で話し合い、情報共有していく）	女性が地域で安心して暮らしていくための、母性看護の役割を表現している	実習記録Ⅳ カンファレンスの発言	・助産師とともに行動し、見学することで助産所の活動内容や、訪れる対象が理解できるよう指導する。 ・教員は、各助産院を実習時間内に巡回し、学生の実習状況を把握する。 助産所実習での不明点などは訪問時に学生に確認し、調整を図っていく。 ・病院実習の体験から困ったこと、戸惑っていること、疑問点などがあれば視点を変えてみることで具体的援助方法を見出せるよう助言する。 ・安全で快適な出産とはどのようなものかを考える、また、出産施設の違いによる利点・欠点について自己の考えを述べることができるよう発問する。 ・各助産所で学生が体験していることは様々であるため、学生間で学びを共有し地域における助産所の役割を考え深めることができるよう助言する。

⑤　女性会館実習（9時間×1日間）

学習活動	時間	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
母性看護の役割を理解する	8：30 ～ 15：00 ～ 15：30 16：15	館長もしくは施設職員より以下の説明を受ける （施設の概要と特性、職員の概要、利用者の状況、男女共同参画推進事業の紹介、電話相談、多職種連携） ・館内見学 ・講座参加 ・施設職員指導のもとワークと学びの共有 ・女性会館が果たす地域における役割について考え、実習記録Vに表現する	女性が地域で安心して暮らしていくための、母性看護の役割を表現している	実習記録V カンファレンスの発言	・館長もしくは、施設職員と行動し見学することで女性会館の活動内容や、訪れる対象について理解できるよう指導する。 ・教員は必要時には、会館を訪れ学生の実習状況を把握する。 女性会館での不明点などは訪問時に学生に確認し、調整を図っていく。 ・困ったこと、戸惑っていること、疑問点などがあれば視点を変えてみることで具体的援助方法を見出せるよう助言する。 ・女性会館が果たす地域における役割とはどのようなものかを考える、また自己の考えを述べることができるよう発問する。

静岡市立清水看護専門学校　母性看護学実習　評価表　　学籍番号　　氏名

学習活動	具体的な評価規準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一歩努力を要する
母性看護の対象について理解する	対象者の身体・心理・社会的な健康状態を表現している	対象理解 探求心 調整力	受け持ち情報用紙 1日の実習計画表 外部実習記録　面接 ミーティングの発言	対象者の健康状態を基礎的知識と関連させ、系統的に解釈している。 20	対象者の健康状態を知るために、指導者の助言を受けて、必要な情報を収集し解釈している。 15	対象者の健康状態を知るために、指導者と一緒に情報を収集し、解釈している。 10	対象者の健康状態を知るために得た情報を表現している。 5
母性看護の対象者に必要な看護援助を実践する	対象者に必要な看護を根拠に基づいて実践する	対象理解 実践力 倫理観	受け持ち情報用紙 1日の実習計画表 外来・外部実習記録 実習状況	対象者の健康に向けたねがいを表現し、対象者の経過や状態に合わせ、安全・安楽・自律に留意した看護援助を根拠に基づいて実践している。 25	対象者の状態に合わせた必要な看護援助を、根拠を明確にし、実践している。 15	気づきを視点に、対象者に必要な看護援助を実践している。 10	看護師が行う看護援助を、指導者と一緒に実践している。 5
看護専門職者としての倫理観をもつ	生命の尊厳について自己の考えをもち、対象者の考えを尊重して関わる	調整力 倫理観	受け持ち情報用紙 1日の実習計画表 外部実習記録　面接 ミーティングの発言	対象者の価値観、生活習慣、慣習、信条等を尊重して関わり、生命倫理について自己の考えを表現している。 20	対象者の思いや意向に合わせた関わりをしており、生命の誕生に対する自己の考えを表現している。 15	対象者の思いや意向を尊重するために必要な関わり方について表現している。 10	対象者の思いや意向について情報収集している。 5
母性看護の役割を理解する	女性が地域で安心して暮らしていくための、母性看護の役割を表現している	探求心 倫理観	最終レポート 実習状況 面接 ミーティングの発言	日々の様々な体験をもとに、地域における切れ目のない多職種連携について自己の考えをもち、母性看護の役割を表現している。 20	実習体験をもとに、母性看護の役割を表現している。 15	日々の実習体験を振り返り、得たことを表現している。 10	自己の体験を表現している。 5
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する	医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている。	倫理観	日常の行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況　面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るために適切な行動をとり、仲間の模範となりチームをけん引している。 15	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている。 10	看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るという視点で自己の行動を振り返っている。 3	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している。 0

実習指導者助言

欠課時間数
（　　）時間／90時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン　　担当教員サイン